



最上エコポリスの実現
=豊かな自然 輝くもがみ=

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第26号

平成23年1月25日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は最上小国川ダム事業の検証に当たって、多くの方々から貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
 今後とも一日も早く流域住民の安全・安心を確保できるよう速やかに検証作業を進め、地域の治水安全を確保できるよう努めてまいります。

最上総合支庁長 小松 喜巳男

最上小国川ダムの検証について（2）

最上小国川ダム事業の検証に係る「対応方針（素案）」に関する流域住民説明会を開催しました

平成22年12月14日（火）午後7時から最上町の瀬見小学校を会場に、約160名の参加をいただき、流域住民説明会を開催しました。

この説明会は、昨年、国から示された新しい検証の基準において「地域の意向を十分に反映するための措置を講じる」ことが求められていることを受け、流域住民の皆様から、治水対策に関するご意見をお聞きするために、開催したものです。

当日は、あいにくの天候の中、また夜間にも関わらず多くの方にご参加をいただき、誠にありがとうございました。

以下、説明の概要と素案に対する参加者からのご意見を紹介させていただきます。

【説明概要】

①対応方針（素案）について

赤倉地区の特徴を考慮して、適用可能な方策を検討した結果、次の4つの治水対策案を立案しました。

- (1) ダム（流水型ダム）案
- (2) 遊水地案
- (3) 放水路案
- (4) 河道改修案

そして、それぞれの治水対策案に対して、河川や流域の特性に応じ、7つの評価軸（評価項目）で評価を行った結果、コストや効果の発現時期等の点において総合的に有利と判断される**ダム（流水型ダム）案**を最良の治水対策と評価したことを説明しました。

②環境への影響（水環境）について

最上小国川流域環境保全協議会のこれまでの開催状況と「中間とりまとめ」について、流水型ダムと貯留型ダムの比較、そして、ダムによる濁りの変化について説明しました。

その中で、環境保全協議会の中間とりまとめの報告内容として「シミュレーションの結果、洪水時における濁りの濃度及び継続時間において、ダムのない場合と比較し若干の差異が生じる。しかし、その差異による魚類（アユ等）の生育や生態への影響は小さいと考えられる」という所見を紹介しました。



【参加者からいただいた主なご意見】

- 1日も早く穴あきダムを完成させて、安全・安心を確保してほしい。
- 分かりやすい説明で、ダム案が最良だと分かった。
- 温泉客や住民が早く安心できるようにしてほしい。
- 砂防ダムにたまった砂を取り除く案はないのか。
- 河道改修を不可能とする根拠は何か。
- 穴が詰まることが最大の不安要素である。

※詳細については、県HPをご覧ください。

第2回最上小国川流域治水対策検討会議を開催しました

12月22日（火）の午後、最上総合支庁において、「第2回最上小国川流域治水対策検討会議」を開催しました。

会議では、県から12月11日に開催した「小国川漁業協同組合への説明会」の状況及び12月14日に開催した「流域住民説明会」の状況を報告しました。その後「対応方針（素案）」について説明を行い、委員から素案に対するご意見をいただきました。

以下、各委員のご意見の一部を紹介します。

○奥山 知雄 舟形町長

- ・もっと早くこのような会議や議論する組織があれば、共通認識をもった解決策ができたのではないかと。
- ・実現性の点で、ダム案になったとしても反対する住民との調整の課題が残るので、今後も粘り強く理解を得る努力が必要である。

○高橋 重美 最上町長

- ・安全度とコストを重要視すれば、ダムは5年、132億円でできるので最も有利。
- ・一日も早く安全・安心を確保してほしい。
- ・鮎への影響を心配しているが、寒河江川が2、3年前に「鮎の食味日本一」になったので、ダムがあるから駄目になるとは言えない。

○伊藤 一雄 最上町議会議員

- ・小国川の状況等、様々な意見をまとめた結果がダム案であれば、一日も早く事業を進めてほしい。

○信夫 正雄 舟形町議会議員

- ・赤倉地区の被害を取り除く必要性があることは、舟形町も小国川漁協も理解している。今後とも、小国川漁協と話し合う機会を設けていただきたい。

○叶内 富夫 舟形町議会委員長

- ・コストや時間の面から穴あきダム案が最良と思われる。
- ・小国川漁協も、同じテーブルについて前向きに検討していけるような雰囲気づくりを双方にお願いしたい。



最上町の委員の方



高橋 町長



伊藤 議長



菅 議員

舟形町の委員の方



奥山 町長



信夫 議長



叶内 議員

○菅 俊郎 最上町議会委員長

- ・周りの住民から意見を聴くと、100%の方が「穴あきダム以外にないのではないかと」の意見である。

※検討会議は今回で終了します。詳細については県HPをご覧ください。

小国川漁業協同組合への副知事による説明について

12月11日（土）の午後、舟形町中央公民館において、副知事が小国川漁協の沼沢組合長はじめ漁協関係者75名の方へ「対応方針（素案）」の内容を説明し、理解を求めました。

副知事の説明後、小国川漁協の方から素案に対するご意見等をいただきました。



発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
 最上小国川ダム建設室 佐藤・後藤
 〒996-0002
 山形県新庄市金沢字大道上 2034
 お問合せ先 電話 0233-29-1407
 Email - 【前画面を参考にしてください。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html